

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	－	－	－
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・国内株価の好調ぶりもあり、国内消費が意欲的になっている。また、インバウンドの購買金額も安定しており、3か月前と比較すると多少上向きと判断できる。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・厳しい暑さが続いており、年齢を問わず涼しい屋内施設での需要が高まっているため、前月まで動きが鈍かった衣料品も実需で売れている。
	○	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・買上点数では前月の前年比98.0%であったが、8月現時点の前年比99.6%と回復している。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響により客足の伸びが止まっているものの、夏物商材が順調に伸びており、好調である。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・猛暑の影響で、売上が良くなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・県内外の度重なる自然災害の影響もあり、問合せがかなり多くなっている。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・今月は、当館では映画館での複数の話題作が好調を維持しており、全体的に好影響を与え特需となっている。特に作品の関連グッズを取り扱う雑貨店舗や飲食店には明確に波及効果が出ているが、その一方で、店舗数の純減もあるため一概にはいえないものの、アパレル業種が前年を下回る推移である。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・販売量の実績は、数か月前と比べると明らかに伸長している。しかし、今まで宿泊客数が伸び悩んでおり、値上げをするより部屋数の確保を優先しており単価は据置きにしている。
	○	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・関西へのパッケージツアーや九州内バスツアーの予約の伸びが大きい。
	○	旅行代理店（統括者）	お客様の様子	・法人客では業績好調企業の需要拡大を継続しているが、個人客ではアッパーミドル層における海外旅行の需要が拡大している。また、インバウンドは堅調に拡大を継続している。
	○	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・暑さにより、集客数が伸びていない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・景気は3か月前と比較すれば少し戻りつつあるとみるが、客はまだ慎重に考慮しながら商品を購入している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街は人通りが少なく、小売店の来客数も減少しており、厳しい状況である。
	□	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・引き続き好調な販売量を維持できる見込みである。
	□	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・セール商品であってもまとめ買いは少なく、多くの客は他店と比較しながら吟味している。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・豪雨と猛暑で来客数が減少し、また、豪雨による交通障害で周辺地域から本店及び関連店舗への来店やギフトセンター来場への影響があったが、サテライト店及び通販関連では来客数や客単価は伸びている。子供関連催事やふるさと物産催事はにぎわい、花火大会開催日は夕方の来客数が増加し、物産展会場や大食堂を含め混雑した状況であった。加えて、舶来雑貨では価格の上昇はあるものの、購入意欲は高く客単価及び商品単価は依然好調になっている。
	□	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・米の高値の報道や物価高のニュースが多く、客は様々な商品の価格についても値上げを感じており、購入までの決定に時間が掛かったり、購入しなかったりすることが増えている。

☐	スーパー（店長）	販売量の動き	・消費者物価指数は上昇しており、消費者の生活防衛意識が高止まりしている状況は変わらない。自社数値も来客数は横ばいであるが、買上点数は減少が続いている。必要最低限のみの購入になっており、チラシ等によりお買い得日の売上指数が伸長している状況に鑑みても景気は変わらない。
☐	スーパー（店長）	単価の動き	・単価の上昇は続いているが所得は上昇しておらず、可処分所得の減少が続いているため消費への意欲は高まらず、景況感は悪いままである。
☐	スーパー（店員）	単価の動き	・当店では価格を税込み表記から税抜き表記に変わるときに、多くの商品が実質の値上げ状態になっているが、売上は予算を上回っている。客は多少の価格上昇には慣れてきていると推察する。
☐	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・売上は前年から続く値上げの影響もあり、前年比プラスで推移しているが、全体の販売量は前年を下回るか、減少する状況が続いている。これは米の値上がり等、客の物価高対策として買い控えが続いている結果である。
☐	スーパー（従業員）	来客数の動き	・食料品価格が継続的に上昇している影響で、客がついで買いをしない傾向が顕著になりつつある。
☐	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・残暑の影響でソフトドリンクの販売は好調ではあるが、景気が良いとはいえない。
☐	コンビニ（経営者）	単価の動き	・今月は天候が良く異常気温が続き、加えて米飯を中心とした商品の価格が値上がりしたことなど売上全体が底上げした影響で大幅に利益が上がっている。
☐	コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・来客数が前年割れをしており単価は変わらないが、値上がり商品の買い控えが響いており、全体的に売上が落ち込んでいる。
☐	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・景気は良くも悪くもない状態である。
☐	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・5月と比べると8月は気温もかなり高く、客の来店頻度や買上枚数、夏物であるため単価についても低くなっている。前年比90%程度と厳しい月となっており、物価高や政治の不安などによるものと予測している。
☐	家電量販店（店員）	お客様の様子	・慢性的な物価高に慣れてきている面もあるが、所得がそれを上回る水準ではないため、高価な商品の買い控えが顕著になっている。
☐	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・子供向けの夏のイベントを開催した結果、週末は多くの家族連れの来店があり、結果的にミニバンタイプの注文数が多くなっている。
☐	住関連専門店（経営者）	競争相手の様子	・今月、店舗での販売は順調であるが、購入決定に時間が掛かっている。同業者の声を聞くと景気は良くなく、家具類は売れていない。
☐	その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	お客様の様子	・前年と比較すると来客数や客の購入単価は、新規の客もあり多少増減はあるもののほぼ横ばいでいる。
☐	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （統括者）	販売量の動き	・国内客の弱さが継続している。また、韓国からのインバウンド減少を中華圏の来客数増加や客高単価で補っている状況も続いている。来客数の大多数は韓国からであるが、客単価は中華圏が韓国より高くなっている。
☐	都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・宴会場の回転率が低い。
☐	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・景気の観点では客や事業パートナー共に大きな変化はみられない。しかし、他県への旅行は例年より減少傾向にある。
☐	タクシー運転手	お客様の様子	・家族連れやインバウンドが多く、タクシー利用がそれほど伸びていない。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・大型クルーズ船の寄港などインバウンドの好調が続いており、アプリを利用したタクシー需要も増えている。また、相次ぐ物価上昇の影響を受け、地元の節約傾向は続いているものの、猛暑による短期間のキャッシュレス決済のタクシー利用は増えている。

□	タクシー（統括者）	競争相手の様子	・乗務員の採用状況が、競合他社と比較して後れを取っており、会社全体では稼働数が減少していると考察している。
□	通信会社（営業担当）	それ以外	・県全体の最低賃金が上がったが、当社で賃上げの気運がない。
□	通信会社（役員）	お客様の様子	・低額プランや競合他社の低価格プランへの移行や乗換えがみられる。
□	テーマパーク職員	来客数の動き	・来館者数は3か月前と同様に、ほぼ前年並みで推移している。
□	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・猛暑が続いているものの、気象予報が雨でなければ予約もある程度あり、入場者は順調に推移している。
□	競馬場（職員）	販売量の動き	・ほぼ横ばいで推移しており、景気の動向による影響は小さい。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・テレビやラジオ、インターネットなどのメディアでは、景気が今一つであると報道はあるが、美容業界でも夏の暑さもあり下降気味が続いている。大きく景気が動くような画期的な物がないため、おしゃれ産業としては向上していかず伸び悩んでいる。秋から新製品が出るため徐々に向上くと期待している。
□	美容室（経営者）	単価の動き	・様々な物が値上がりしても保証がないため、当店でも破格の値段を打ち出している。利益はほとんど出ないが、店を存続するためには値段を下げるしかないのが現状である。
□	美容室（店長）	お客様の様子	・生活必需品は購入しているが、食料品や外食費などの何もかもが値上がりしていることが普通になっており、景気が良くなったとは考えられない。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・景気の目安である株価が非常に上がっているが、景気は良くない状況となり薄っぺらな経済効果になっていると推察される。経済を高めるには金を回していかなければ回復しないため、政府に期待している。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・各種イベント等の来場者数もほぼ変わらない状況が続いており、一定数の客の動きは継続している。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価の上昇と猛暑続きで商店街は閑散としている。食品スーパーの開店時間のみ多少にぎわっている。高齢者が多い地方の商店街では午前中は病院帰りの客や銀行・郵便局等必要に迫られての来街者はあるが、午後からは暑さを避け人通りは極端に少なくなる。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑でアーケード内の客がまばらで、困っているのが現状である。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・この暑さで来客数が減少している。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・米国関税の影響や参議院選挙などがあったが、1番の要因はこの暑さで、商店街への来街者数は減っている。3か月前も良い状態ではなかったが、3か月前と比較してもやや悪くなっている。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・お盆にはキュウリやピーマン、トマトなど農産物価が急騰したが、それが落ち着いてからは猛暑で需要がなく価格の高騰につながらず、お盆前の状況と同じ相場になっている。
▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・暑さもあり日本茶の売上は伸びていないが、外国人による抹茶購入は数か月前から増加傾向である。利用方法は不明であるが、購入者は多い。常に在庫はなくなる状態ではあるものの、全体的な売上は低迷している。
▲	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物価高や猛暑の影響により全体的に苦戦を強いられており、来客数の減少が響いている。サロンの売上は落ちていないが、近隣で買物を済まそうとする購買行動が顕著にみられる。
▲	百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・猛暑や値上げなどにより、これまで好調であったカテゴリーも苦戦している。また、大雨の影響を受けた後の反動売上も特になく、景気が良いとはいえない状況である。

企業 調査	▲	百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・猛暑の影響による外出機会の減少に加え、消費マインドの低下がみられる。また、好調に推移していた高額品需要も物価高による商品値上げで一服感がある。特にラグジュアリー商材ブランドの単価上昇は堅調で、売上に影響が出てきている。
	▲	スーパー（企画 担当）	お客様の様子	・原材料費や人件費などのコスト上昇分の価格転嫁が進んでおり、買上単価上昇は継続している。一方で消費者の防衛意識の高まりから、買上点数が前年を下回る傾向も続いている。そのため、来店頻度が減少し売上が前年を下回る傾向にある。
	▲	コンビニ（経営 者）	お客様の様子	・災害や物価高による影響が出ている。
	▲	コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・猛暑が続き、加えて大雨の発生による天候不順で来客数が減少している。
	▲	衣料品専門店 （店員）	販売量の動き	・物価高の影響で、衣料品の価格も上がったためセット率が下がり、その結果、前年比86%と客単価も大きく下がっている。
	▲	家電量販店（店 長）	来客数の動き	・買物をしようというマインドにならないため、来客数の減少傾向が続いている。
	▲	住関連専門店 （従業員）	来客数の動き	・酷暑に加え、線状降水帯などの大雨が続いたため来客数が少ない。
	▲	観光旅館組合 （職員）	来客数の動き	・夏休みで子供連れの客は多いが、気温が高く、温泉の利用などはなかなか難しい時期である。
	▲	観光型ホテル （管理）	来客数の動き	・夏の顧客状況は前年と比べ若干減少しており、今後の予約状況も前年と比較すると悪化している。
	▲	通信会社（企画 担当）	販売量の動き	・光回線契約の新規販売は、前年比から減少し解約が増えて いる。
	▲	ゴルフ場（従業 員）	来客数の動き	・猛暑により来場者数の動きが鈍化傾向にある。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・8月に入り新型コロナウイルス感染症が拡大傾向となり、入院や体調不良等の利用キャンセルが増加し、減収要因となっている。また、主力の訪問介護において、人材確保が厳しく機会損失が発生している。
	▲	設計事務所（代 表）	来客数の動き	・イベントの来場者数が少ない。
	×	商店街（代表 者）	来客数の動き	・例年よりも気温が非常に高く、今までの常識では判断できない状況になっている。消費行動にその影響が出ており、ある程度推測できていたことが、今までの経験が役に立たず、低迷した状況が続いている。
	×	商店街（代表 者）	お客様の様子	・今年の夏は異常な猛暑であるが、当商店街はテントで営業しており、商品を思うようには陳列できないため、客は近くのコンビニエンスストアやスーパーマーケットに行っているのが現状である。
	×	商店街（代表 者）	来客数の動き	・猛暑や物価高が原因なのかははっきりしないが、全く客が来店しない。
	×	一般小売店〔生 花〕（経営者）	販売量の動き	・8月は花屋にとってお盆や墓参りの供花の需要があり期待できるが、今年は水害や集中的な雨で墓参りを敬遠するような天候の影響で売上が伸びず、例年より売上が悪い。
	×	高級レストラン （経営者）	来客数の動き	・当店では社用の客が多いため、8月はお盆休暇もあり予約は余り入らなかった。
	×	スナック（経営 者）	来客数の動き	・売上が前年比15%減少になっている。
	×	観光型ホテル （営業）	来客数の動き	・夏の団体客は元々芳しくないが、近年の猛暑が更に悪化させている。加えて、水害や台風などの自然災害が重なり、厳しい状況にある。
	×	観光型ホテル （専務）	来客数の動き	・何が要因なのかははっきりと分からないが、当社だけではなく同じ地域の業者も景気が良くない状況である。
企業 調査	◎	—	—	—

動向 関連 (九州)	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年は梅雨明けも早く、夏場の消費は順調に伸びている。8月に関しては工場生産に必要な燃料も潤沢にあったため、客先の需要に対応できて売上も計画どおり伸びてきている。特にスーパーマーケット関連、居酒屋関係の需要が大きくなっている。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・米国の関税が決定したことで、経費の圧迫要因となるものの先の見通しが立てられる状況となり、取引先からの引き合いも増えつつある。
	○	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・予算や台数に対して上振れ傾向が続いている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は変わらない状態である。しかし、価格変動の状態で今後の受注関係に危惧している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の輸出の比率が高いため、今後は米国関税の状況がはっきりするまでは不安定な要素が多く、その状態が当社にも響いてきている。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・米国向け自動車関税は決まっているが、実際の影響がどの程度発生するか不透明である。また、米国では日本の自動車が販売不振で滞留しているため、輸出回復にはまだ時間を要する。荷主はコスト削減のため入札を実施する傾向が強くなっており、昔のように安く入札する業者は難しく、入札価格は現状より高くなるため、一部には2つの拠点を1か所にまとめるなど拠点数を減らす動きもある。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・お盆休み前に例年どおりのまとまった出荷量があったが、予測よりも大きな上振れはなかった。
	□	金融業（経営者）	競争相手の様子	・同業他社の情報によると、今年の調査の出足が余り良くない状況である。調査はスタートで決まるため、当面は小さな調査を取っていくことになり、景気は変わらない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・物価高の影響が続いており、大きな変化はない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・食品や電子機械関連の製造業とサービス業で積極的な設備投資の動きがあり、運輸や建設関連では人手不足感が強まっている。猛暑の影響でハンディファンやネッククーラーなど手軽なクールダウン商材がよく売れているほか、日焼け止めや日傘を購入する男性も増加傾向にある。
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・米国関税については、一定の方向性が確認できたものの、その影響については未知数であり、中小企業への影響はまだ見受けられない。しかし、経営者は景気の先行きには楽観視しておらず、設備投資については、補助金の適用がないと消極的な姿勢は変わらない。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・物価上昇に賃上げが追い付いておらず、賃上げが大企業など一部にとどまっている。可処分所得は減少し、個人の余剰資金は減っている。
	□	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・会社の受注状況等に鑑みると、景気の動向は余り変わらない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の業況確認により、大きな変化はない様子である。
	□	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・お盆明けの同業者との交流による情報でも、お盆休みもあり新しい動きは全くみられない。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前回の調査と同様に、引き続き受注が低調に推移している。
	▲	その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・お盆休みも原因の1つとみられるが、稼働日数が少なく受注や生産が落ちている。

	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社を取り巻く環境は相変わらず好転していない。売上についても前月比ではプラスになったものの、前年比ではマイナスとなっている。新聞の発行部数の減少に歯止めがかからず、新聞折込の部数もそれに比例して減少しており、3か月前と比較するとやや悪い状態が続いている。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・当県における市町村の福祉・健康、まちづくり等に関する調査や計画策定の委託業務について、6月の補正予算で計上されている件数が少ないことから、8月における入札において低価格競争となっている。このため、受注できる機会が少なく景気が悪くなっている。
	×	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・海外の工場へシフトしているため発注が少ない。最低賃金の引上げのため、より安くできることを求めている、小規模企業では残業は難しく、結果的に従業員の給料が減っているのが現状である。
	×	経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・気候変動と自然災害の影響で悪い状況になっていると推察される。
	×	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・食品の値上げがあり、特に調味料や菓子の値上げが大きく深刻な状態である。清酒、焼酎は特に売れず倒産の危機感がある。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前と比べて企業の採用意欲に大きな変化はみられない。人手不足感は続いているが、新規採用を積極的に拡大する動きは乏しく、当社に寄せられる求人件数も横ばいの状況である。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・パートやアルバイトの社会保険料徴収に向けたキャリアアップ助成金が7月から始まり、中小企業では雇用の改善に向けた努力が求められている。有効な制度になるとよいが、この効果により景気が良くなるかは見当が付かない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・インバウンドについては変わらず好調が続いているが、一般消費者の生活に目を向けると値上げなどの影響もあり、消費行動にも抑制的なところもある。そのため、相殺されている面もあり、景気全体としては変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・当所管内の新規求職者数が3か月連続で前年比プラスとなっており、新規求人数が減少傾向にあるなかでも、より良い条件を探している求職者数の声を聞く。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・8月以降も採用活動を継続している企業は多く、深刻な人手不足を背景に求人件数は増えており、学生には有利な状況である。一方では、採用活動を行う企業や団体にとって苦戦も多くみられ、9月以降も継続して採用活動を行う企業が多い。
	▲	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・新規の派遣や旧取引客への受注活動を行っているが、発注数が伸び悩んでいる。雇用を前提とした紹介予定の派遣案件なども条件は悪くないが、エントリーの反応が少ない。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数の落ち込みが顕著である。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が2割強減少しており、問合せは既存や以前から取引のあった企業のみで、新規企業からはない状況である。
	▲	新聞社〔求人広告〕（社員）	それ以外	・依然として物価の高止まり感があり、景気のマイナスへの変動要因とならないかが心配である。
	×	—	—	—